

政務活動費収支報告書

令和5年4月26日

八尾市議会議長

奥田信宏

様

議員名又は会派名とその代表者名

西川あり

条例第13条第1項の規定により、令和4年度 政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入

(単位：円)

項 目	金 額
政 務 活 動 費	672,000

2 支出

(単位：円)

項 目	金 額	
支 出	調査研究・研修費	36,460
	資料作成費	
	資料購入費	
	広報費	477,269
	広聴費	
	日常活動費	
	人件費	
	事務所費	
	事務費	
	合 計	513,729

3 収入支出差引残額（返還額）

158,271 円

注) 支出が収入を上回る場合は、残額欄には0円と記載のこと。

様式第15号（第9条関係）

政務活動費における活動報告書

令和4年度の政務活動の内容は、収支報告書のとおりであります。そのうち、主要な政務活動内容の概要については、別紙のとおりでありますので条例第14条第1項及び条例施行規程第9条第1項の規定に基づき簡潔に報告いたします。

議員名又は会派名とその代表者名

西川 あり



2022年度政務活動費活用による活動報告書

市政報告書発行と配布

目的

今年度は2回の市政報告を発行しました。個人質問、委員会での議案、決算審査など個人的に重点課題だと思っている、子ども、教育、障がい福祉施策等をより広く周知したいことを主に報告させていただきました。

課題

多くの市民の方にお届けするために、駅頭での配布も心がけていましたが、女性や学生さんの受け取りが少なく感じました。政治になかなか目が向かない忙しい世代や、関心が向きにくい世代にも、手にとってもらえるようますますの紙面構成の改善が必要だと感じています。

2022年8月4日・5日 東京都立砧公園・川崎市こども夢パーク視察

4日 東京都立砧公園

テーマ・目的

インクルーシブな社会を目指し、障がいのあるなしにかかわらず共に学び、共に生きる社会を目指しているにもかかわらず、学校の中では支援級と通常学級の隔たりを感じる時がある。地域にある公園で、障がいのある子もない子も公園で出会うことができ、遊びのなかで理解し合うことが重要だと考えている。幼い頃から遊びを通して経験していく場として、障がいのある子も利用しやすい遊具を設置されたインクルーシブ公園を視察した。

成果・課題

海外では、早くから設置されている障がい者、児も利用できる公園では、車椅子のままスロープを利用して遊具に乗り上げたり、肢体不自由な方でも寝ながらブランコで体感できたり、障がいがあっても野外で楽しむことができる公園が多い。国内でもようやく国立公園以外に都立や市立で地域の公園として設置が進んでいる。ただ、遊具があるだけでは、健常児の子どもと共に遊ぶまでは至らない。砧公園は、運営団体とNPO団体が公園の中に働きかけ、遊具の意味や、インクルーシブの考え方を丁寧に利用者に話されたり、交流イベントを実施されている。人と人を結ぶコーディネ

ートもしっかり根付いてこそ、新たな価値観が受け入れやすくなると思った。

本市での課題

・インクルーシブ遊具はまだ高価で、設置にある程度の広さも要する。新規の公園、また古くなった遊具の入れ替え時に、多様性の視点を入れていくことも重要だと考える。

5日 川崎市子ども夢パーク

テーマ・目的

子どもの居場所として各地にたくさんあるが、川崎市子ども夢パークは、川崎市子ども条例に沿って、大人と子どもの意見をもとに設置されている。子ども条例作成と居場所の関係、また運営について学ぶために訪問した。

成果・課題

1994年、こども権利条約を国は批准したが、国内整備がなかなか進まない中、各自治体において条例作成が行われた。1998年、川崎市はいち早く条例検討連絡会議が立ち上がり、市民委員、子ども委員と募集がかかり、大人や子どもの意見を取り入れながら、2001年に施行された。その条項の中 27条「子どもの居場所」子どもには、ありのままの自分であること、休息し

て自分を取り戻すこと、自由に遊び、若しくは活動すること又は安心して人間関係を作り合うことができる場所が大切であることを考慮し、市は居場所についての考え方の普及ならびに居場所の確保及びその存続に努めるものとする。と明記されている。そのために、市内にあった工場跡地を子どもの遊び場、居場所として創設された。自由に遊べるプレーパークや学校に行ってる子も行ってない子も集えるフリースペースや、近所の大人も集う居場所になっている。

本市での課題

- ・子ども条例があることで、市の事業として確保されていることが重要だと思った。
- ・子ども委員会が機能し、受け継がれ、子どもの意見が反映されること、又そのような場を設

置すること

- ・子ども食堂を各地域で、市民団体が運営されているが、遊び場というテーマで、多くの子どもが集う場がない。各地域の公園では体験できない、自由さ、自分の責任、トラブル回避など学ぶ場の必要性を感じる。

